

学生図書委員会 活動報告ほか

一年間の活動を振り返って

4M 井上 遙介

図書委員 4 年目もほぼ終わった委員長の 4M の井上です。正直な話、ろくに委員会を纏めることもできなかった自分が活動報告なんて書いてもいいのかなぁなんて思っていたり。出来れば去年数学の教科書で感想文を書いた優秀な彼や同じく優秀な副委員長にでも頼んでほしかったところですがそういう訳にもいかないようです。活動報告ですし。委員長の仕事ですし。

さて、本題の活動報告に入ります。今年度はブックハンティングを中心に、女子向け雑誌の導入、寄贈図書の貸し出し開始、図書委員会だよりの発行という新しい試みも開始しました。また、恒例となっている読書週間に合わせた企画展示も行いました。例年よりも忙しくも充実していたように思います。各企画のグループリーダーも真面目に取り組んでくれて助かりました。

ブックハンティングは例年通り 6 月と 11 月に大阪のジュンク堂書店で行い、各クラスの希望図書を一通り購入してきました。しかし毎回購入希望額がウン万円にもなるクラスと 0 円になるクラスに二分されてしまい…。そこで昨年度より予算の振り分けを行い、購入希望図書が多かったクラスが多めに本を買えるようにしています。購入希望額が 0 円のクラスにも予算は残しており、当日良さそうだった本を購入してもらいました。

雑誌導入はなんというか、高専というか…。某アニメ雑誌を購入選択肢に入れた時点でこうなるのは予想の範疇ではありましたが。購入したアニメ誌も女性向けファッション誌も好評だったので良かったです。

読書週間は皆既日食など天体現象に触れる機会の多かった年だったので、テーマを「天体」とし、例年通りクイズを作ったりレビューを書いたのを飾ったりしました。

寄贈図書貸し出しは結局 12 月まで割り込んでしまいました。何とか開始にこぎ着けることができました。来年度もたくさんの図書の寄贈、お待ちしております。

図書委員会だよりは合計 4 回発行しました。実は全て 2 年の委員がデザインしてくれています。多分読んでくれている人は少ないと思いますが…。今度機会があったらぜひクラスの掲示板に張ってある委員会だよりを読んでみてください。委員のレビューや委員会・図書館からのお知らせなどが書いてあります。意外と面白いですよ？

最後に。本年度はグループリーダーを中心に委員全員、特に低学年の委員が非常にマメに仕事をこなしてくれたおかげで全企画を成功裏に終わらせることができました。この場を借りてお礼申し上げます。そして学生の皆さん、来年度も図書委員会をよろしくお願いします。

寄贈図書コーナー



今年度の図書委員会の活動の一つとして、寄贈図書コーナーを設置しました！ ここには図書館に寄贈された図書が並んでいて、これらの本は借りることもできます。詳細は備え付けのノートを見てください。

人間失格 太宰治

1M 萩岡 宣旭

この本を読んでいると、様々な人間の罪、蜜、汚れ、墮落、嫌悪、情をすべて鍋で煮込んだおどろおどろしいもの、そんなものを飲まされた気分になりました。

この話は作者の経験談から作られた物語です。心中、左翼、飲酒、薬物、咯血まるで作者の経歴をなぞっているかのように。

だからこそ、前述の通り、悲しい、とも、嘆き、とも、恐怖、とも違う、言葉にしにくい、唯一その感情については気持ちのよいものではない、としか形容できない生まれて初めての心の揺らぎを感じとれたのだと思います。

『いまは自分には幸福も不幸もありません。ただ、一さいは過ぎて行きます。』

ただ、過ぎていく時間の中でどのような思いを作るのかは自分次第です。

魔女の宅急便 角野栄子

1E 富田 明日香

私は魔女の宅急便という本を読みました。皆さんも映画が何かでご存知だとおもいますが、この本ではあの映画の時とは違う魔女の宅急便がみれます。私も、最初のほうは同じかなと思って読んでいたんですが、読み進めるにつれて映画とは違う話になっていきました。この本では映画で最後にでてきたあの飛行船はでてきません。キキが宅急便屋さんをするのは同じなんですが、その依頼人を助けたりもします。この物語のいいところは魔法使いが使う魔法がとても単純であることや、キキがどれだけ成長したかとか、新しい街に着きたての頃と1年間住んでからその新しい街に対してどう思ってるかなどというキキの内面の变化も表されています。とても面白い本でした。

ショートショートの中の神様

2I 酒井 峻

「ショートショートの中の神様」と言われた作家を知っているだろうか。その名も「星新一」である。

ショートショートとは、短編小説よりさらに短い作品のことで、わずか数ページで作品が終わる。そのショートショートを一気に広めたのは、今回紹介する星氏である。

星氏は、1001編以上のショートショートを書き、「ショートショートの中の神様」と呼ばれた。どれも短い作品ではあるが、ブラックユーモアや風刺、皮肉が効いた作品が多く、考えさせられることも多い。そんな星氏の作品をいくつか紹介したい。

まずは、「生活維持省」である。一時期、イキガミが似ていると話題になった作品である。そこは、平和な世界。しかし、それは人口抑制によって行われているもので、誰かが犠牲にならなければならない。生活維持省の役人がランダムに選ばれた人を、この日も一人を殺したが、次は役人自身が選ばれた。役人は、一緒に回っていた相棒の役人に最後にこう言った。「ああ、生存競争と戦争の恐怖のない時代に、これだけ生きることができて楽しかったな」

また、「おーい でてこい」もおすすめである。台風によって飛ばされた社の跡から穴が出てきた。「おーい でてこい」と呼びかけても反響してこない。調査の結果かなり深い穴だと分かり、放射性廃棄物などの処分困る物を捨てていった。ある日、ビルを建設している工員が休んでいると声が聞こえた。「おーい でてこーい」

他にも、沢山の作品があるが、どれも考えさせられるオチで、面白い作品ばかりである。わずか数分で一作品を読み終わるので、ぜひとも読んでその皮肉の効いた面白さを感じて欲しいと思う。